



# 個別の状況に応じたカリキュラムの 編成・実践に関する提案

## 【実践事例編】

選択肢！

～Society5.0 を見据えた  
「学びの変革」のアップデート～

令和3年3月  
広島県教育委員会事務局  
個別最適な学び担当  
(こべたん)



# ～ 目 次 ～

## はじめに

- 1 個別最適な学びに関する実証研究の取組概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2
- 2 個別最適な学びに関する実証研究を振り返っての気づき・・・・・・・・ P.3
- 3 個別最適な学びの教育効果（概要）・・・・・・・・・・・・・・・・ P.4
  - 3-① 教育効果等の分析サマリー（宮園小学校）・・・・・・・・ P.6
  - 3-② 教育効果等の分析サマリー（三高小学校）・・・・・・・・ P.8
  - 3-③ 教育効果等の分析サマリー（みらさか小学校）・・・・・・・・ P.10
  - 3-④ 教育効果等の分析サマリー（三良坂中学校）・・・・・・・・ P.12
  - 3-⑤ 教育効果等の分析サマリー（福山中学校）・・・・・・・・ P.14
- 巻末参考 中央教育審議会答申（R3.1）と本県提案（R23）との関係性・・・ P.16

## 別冊 具体的な実践事例

- 実践事例報告①：宮園小学校
- 実践事例報告②：三高小学校
- 実践事例報告③：みらさか学園
- 実践事例報告④：福山中学校



# はじめに

## 【県の動き】

○本県では、全ての子供たちの「主体的な学び」の実現に向けて、個別最適な学びに関する調査研究を進め、令和2年3月に「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に係る提案」として整理するとともに、同年4月から、県内4地域において「個別最適な学びに関する実証研究」に取り組んでいます。

## 【国の動き】

○令和3年1月に、中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～」が答申されました。

## ＜ポイント＞

「社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難になってきている中、ICTも活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実し、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要がある。」

## 【本冊子の活用イメージ】

○各実証研究校での実践事例や教育効果の検証結果などについて、上記提案に関する「実践事例編」として取りまとめました。これらは、あくまで選択肢の一つです！

○各学校が掲げる教育目標の実現に向けて、本稿に掲載した実践事例の中から、「効果がありそう!」「取り入れてみたい!」と思う事例があれば選択し、まずは実践してみてください。きっと、子供たちは、これまで以上に、主体的に学ぶ姿を見せてくれると思います。

令和3年3月

# 1 個別最適な学びに関する実証研究の取組概要

県内4地域の実証研究校において、学校教育目標の実現に向け、子供たち一人一人の学習進度・能力・関心等に応じた**多様な選択肢**を提供することで、子供たちは**自己決定**を繰り返しながら**主体的な学び**を展開しています。

## 廿日市市立宮園小学校

### 【単元内自由進度学習】

学校の重点目標「自ら考え行動する子供」の育成を目指し、一斉授業の形態だけではなく、子供たちが『学習計画表』を活用して教科書、プリント、AI型タブレット教材等の多様な選択肢の中から自分に合った学習方法を選択し、自分のペースで学んでいます。



自分に最適な方法やペースで学習を進めるからこそ自然に教え合う場面も見られます♪

## 三次市立みらさか学園

### 【プロジェクト学習】

学校教育目標に掲げる「自立と共生」の実現に向け、子供たちは自ら学習プランを作成し、自分たちの力で試行錯誤しながら、自己調整力や協働力を活用して課題解決を目指していく「単元別プロジェクト学習」に取り組んでいます。



自分に最適なプランを作成することで、自分の学びに責任を持つようになりました♪

## 江田島市立三高小学校

### 【イエナプランを参考にした自立・協働学習】

学校教育目標に「自ら学び共に伸びる子供の育成」を掲げ、自然に対話が生まれる学びの環境づくりを大切にし、『学習計画表』を活用して自分のペースで進める自立学習や、子供たちの問いから始まる異年齢集団での探究学習に取り組んでいます。



多様性を尊重し、子供たち同士の対話や協働の場面を大切にしています♪

## 福山市立福山中学校

### 【興味・関心に応じたMY探究】

学校教育目標を踏まえたスローガン「i. dream 一人一人の夢の実現」を目指し、総合的な学習の時間を中心に、生徒一人一人の興味・関心に基づくMY探究を企画し、自分のやり方やペースで実行していく中で、各自の夢の実現に主体的にコミットしています。



自分の興味関心をカタチにしていける探究活動なので生徒たちのワクワクが止まりません♪



## 2 個別最適な学びに関する実証研究を振り返っての気付き

Goal

全ての児童生徒の「**主体的な学び**」の実現

手法

子供の実態に応じた多様な**“選択肢”**と**“自己決定”**を意識した教育活動

Point 1

教職員の大切にしたい心の持ち方・考え方

(次のようなマインドセットを意識)

- 学びの主体は子供 (⇒ 支え励まそう)
- 子供は力を持っている (⇒ 委ねよう)
- 子供には多様性がある (⇒ 尊重しよう)

Point 2

子供の実態(学習進度・能力・関心等)に応じた多様な選択肢と自己決定場面を設定

### 実証研究校での検証結果 (教育効果)

- ◆ 子供たちの資質・能力が向上した!  
～コンピテンシーが伸びた児童生徒割合: **約92%**
- ◆ 自己決定すれば実行力・自己効力が伸びた!  
～決断力が伸びた児童生徒のうち、実行力も伸びた者: **約70%**  
～決断力が伸びた児童生徒のうち、自己効力も伸びた者: **約75%**
- ◆ 子供たちの主体性・理解度・満足度が高かった!  
～各アンケートでの肯定的回答  
主体性: **約94%**, 理解度: **約91%**, 満足度: **約93%**

### 実証研究校での目指す姿

子供

- **自分から進んで学習しているか?**
  - ・自ら学習方法や内容を選択し、自分のペースで学んでいるか?
  - ・分からない事を学び合いの中で自分たちで解決しているか?
- **自分の学びを本気で振り返っているか?**

教師

- ◆ **子供の実態を踏まえた教材研究ができていますか?**
- ◆ **一人一人の学びを見取っているか?**
- ◆ **個に応じた支援ができていますか?**

### 3 個別最適な学びの教育効果（概要）

#### ◆「主体的な学び」を定着させるための仮説

- 子供の実態に応じた多様な学びの選択肢を提供し、子供たちの自己決定場面を増やすことにより、子供たちが主体的に学び続ける！

多様な学びの選択肢  
を提供

自分に最適な学び  
を選択・実践

学ぶ楽しさ・できる喜び  
を感じる

自己肯定感  
が向上

主体的に  
学び続ける



- この過程において、子供たちの資質・能力が向上する！

#### ◆ 検証結果（1年目の中間報告）

- 実証研究校において、次のとおり、仮説を裏付ける結果が得られた。

項目	結果概要
①資質・能力の相関	決断力の伸びは実行力や自己効力の伸びに影響する
②資質・能力の変容	学校で育成したい資質・能力が向上
③資質・能力と学力テスト結果との相関	資質・能力の伸びが学力テスト結果に影響する
④児童生徒アンケート結果	主体性・満足度・理解度などが向上
⑤教職員インタビュー結果	自己肯定感や主体性の向上などに手応えあり

## 【参考】資質・能力の測定分析方法

- 各学校において育成したい資質・能力に関連するコンピテンシーを設定し、AiGrow（※）を活用して、取組前後の伸びを測定・分析した。

コンピテンシー	コンピテンシー詳細	各学校で設定したコンピテンシー				
		宮園小	三高小	みさか小	三良坂中	福山中
課題設定	状況を的確に把握しながら「何をすべきか」「どうやって成し遂げるか」を自ら考え出せる能力				●	●
創造性	自分ならではの独自性に加えて、実現可能な生産性を伴ったアイデアを出すことのできる能力				●	●
論理的思考	道理や筋道に即して物事を深く考えることができ、複雑なことでも分かりやすく説明できる能力	●	●	●	●	●
疑う力	他者の意見をそのまま鵜呑みにすることなく、必要に応じて建設的な反論することのできる能力					●
個人的実行力	自らの意思によって行動を起こして計画を進め、何事にも自ら進んで取り組むことのできる能力	●	●	●	●	●
ビジョン	将来、自分がどのように成長していきたいかなど、未来の目標を明確に持つことのできる能力				●	●
耐性	困難な状況であっても、自分で決めたことは最後までしっかりとやり抜くことのできる能力				●	●
自己効力	何らかの課題に直面しても、「自分ならできる」と自信を持って物事を進めることのできる能力	●	●	●	●	●
決断力	自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら判断し、物事を決めることのできる能力	●	●	●	●	●
表現力	自分の考えや思いはもちろん、どんなことでも相手が理解しやすいように伝えることのできる能力	●		●	●	●
共感・傾聴力	相手の話を真剣に聴き、相手を深いレベルで理解し、相手の気持ちを尊重することのできる能力					●
柔軟性	変化への対応力とともに、その場その場で機転を利かせて行動を適宜修正することのできる能力					●
寛容	自分とは考えや意見の異なる相手に対しても理解を示し、それを許容する態度が持てる能力	●	●	●	●	●
影響力の行使	他者に対して自分の考えや目的を伝えながら、ともに協働して物事を進めることのできる能力				●	●
地球市民	自分が住む地域や日本のことはもちろん、世界の一員として何ができるか考えられる能力				●	●

※ AiGrow：AIを活用してコンピテンシー（ある役割において優秀な成果を発揮するための行動特性）を測定・可視化できるEdTechソフト

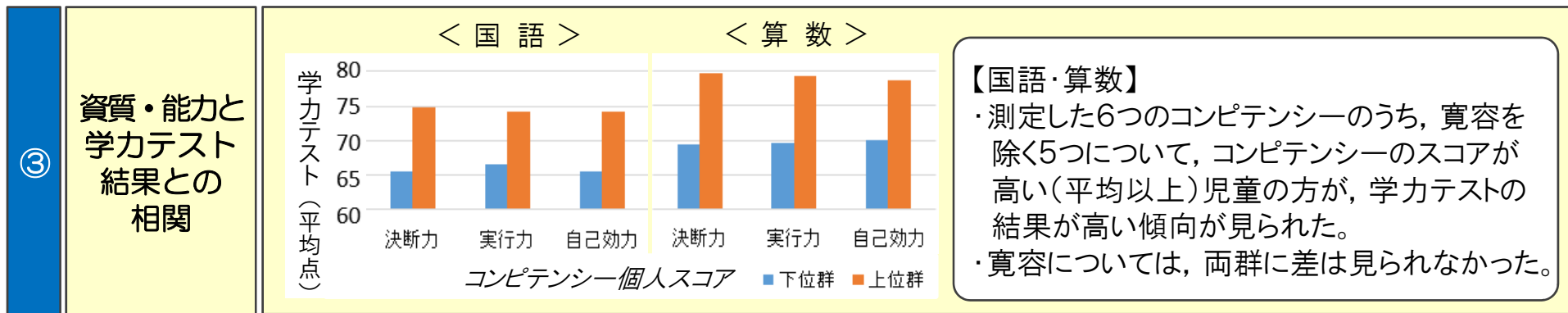
# 3-① 教育効果等の分析サマリー(宮園小学校)

実証研究概要	学校重点目標	自ら考えて動く子供の育成 ～自立・多様性の尊重・挑戦～
	育成したい資質・能力	主体性・積極性, 思考力・判断力・表現力
	実証手法 (自己決定場面)	単元内自由進度学習(小3～6:算数メイン) - 学習計画表に基づき, 単元内を自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択～教科書, プリント, AI型タブレット教材など
	測定コンピテンシー	論理的思考, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 寛容 (AiGrow活用:R2.7→R3.2)
	学力テスト	算数, 国語 (東京書籍:標準学力調査 R3.1)

①	資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 自己決定するほど実行力や自己効力が高まり, 実行するほど自己効力が高まる傾向あり。</li> <li>➤ その他, 論理的思考と実行力, 決断力と表現力・寛容にも相関が見られた。</li> </ul>																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>割合</th> <th>相関係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決断力 - 実行力</td> <td>決断力が伸びた児童(48%)のうち, 実行力も伸びた児童</td> <td>70%</td> <td>0.543</td> </tr> <tr> <td>決断力 - 自己効力</td> <td>決断力が伸びた児童(48%)のうち, 自己効力も伸びた児童</td> <td>80%</td> <td>0.545</td> </tr> <tr> <td>実行力 - 自己効力</td> <td>実行力が伸びた児童(52%)のうち, 自己効力も伸びた児童</td> <td>73%</td> <td>0.474</td> </tr> </tbody> </table>	区分	内容	割合	相関係数	決断力 - 実行力	決断力が伸びた児童(48%)のうち, 実行力も伸びた児童	70%	0.543	決断力 - 自己効力	決断力が伸びた児童(48%)のうち, 自己効力も伸びた児童	80%	0.545	実行力 - 自己効力	実行力が伸びた児童(52%)のうち, 自己効力も伸びた児童	73%	0.474
		区分	内容	割合	相関係数													
		決断力 - 実行力	決断力が伸びた児童(48%)のうち, 実行力も伸びた児童	70%	0.543													
		決断力 - 自己効力	決断力が伸びた児童(48%)のうち, 自己効力も伸びた児童	80%	0.545													
実行力 - 自己効力	実行力が伸びた児童(52%)のうち, 自己効力も伸びた児童	73%	0.474															

②	資質・能力の変容	<p>&lt;各コンピテンシーが伸びた児童割合&gt;</p> <table border="1"> <caption>各コンピテンシーが伸びた児童割合</caption> <thead> <tr> <th>コンピテンシー</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論理的思考</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>個人的実行力</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>自己効力</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>決断力</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>寛容</td> <td>46%</td> </tr> </tbody> </table>	コンピテンシー	割合	論理的思考	52%	個人的実行力	51%	自己効力	59%	決断力	48%	表現力	53%	寛容	46%
		コンピテンシー	割合													
論理的思考	52%															
個人的実行力	51%															
自己効力	59%															
決断力	48%															
表現力	53%															
寛容	46%															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の授業を中心に, 教育活動の中で自己決定場面を意識して設定したことで, 約半数の児童の「決断力」が伸びた。</li> <li>・最初は自立的な学習方法に戸惑っていた児童も, 自分で最適な手法を選択しているので, 最後まで粘り強く取り組むことができ, 過半数の児童の「実行力」が伸びた。</li> <li>・決断や実行を繰り返すことで, 約6割の児童が, 自分ならできると自信を持って行動できる力, いわゆる「自己効力」が向上。</li> </ul>																





④ 児童アンケート結果

<自分に最適な学びの方法を選択・決定して進める算数の授業について>

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	89%
理解度	これまでより分かりやすかった	84%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	93%

【主なコメント】  
 ・自分のペースで進められるので理解しやすい。  
 ・友達にたくさん教えてもらえるので勉強が楽しくなった。  
 ・これまでより算数が好きになった。

⑤ 教職員インタビュー結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までと比べて、実態把握する時間ができ、適切に「個への支援」ができるようになった。</li> <li>全ての子供が本気で学ぶには、委ねるだけではまだ難しいので、適切な支援や声掛けが必要。</li> <li>進度が様々だと見取りが難しいが、子供たちに本気で振り返るように話をしたり、EdTechを活用して見取りをしたりすることで、子供たちの学びを把握できるようになってきた。</li> </ul>
児童の反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>困ったときに自分から友達や先生に「分からない」「教えて」と言えるようになった。</li> <li>自分でやろう、自分から分かるようになろうといった本気で学びたいという姿勢が見えてきた。</li> </ul>

課題と対応

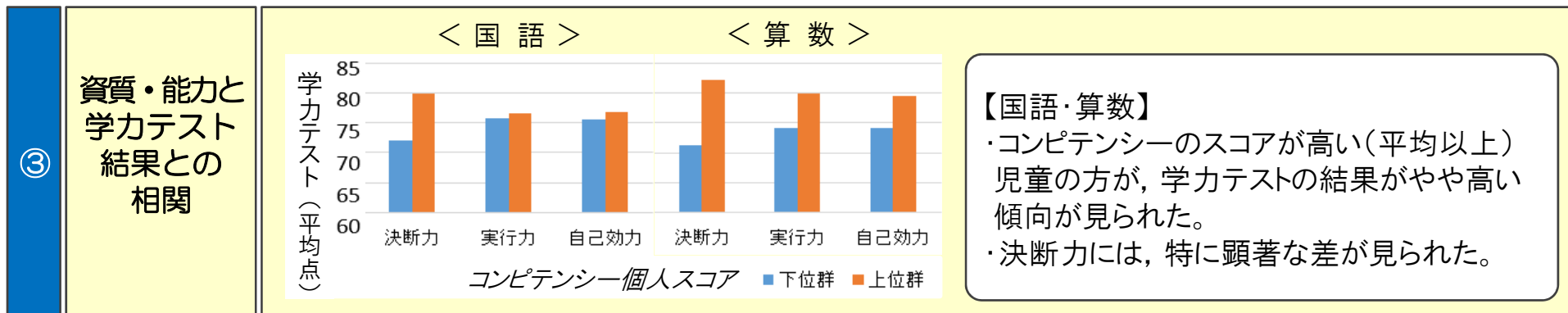
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由進度学習の中で、より児童一人一人のペースに応じた学習内容や方法の充実が必要。</li> <li>個別学習における学び合いだけでなく、もっと意図的に協働的な学びを充実させることが必要。</li> </ul>
今後の対応(R3年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数教科による自由進度学習を実践するとともに、知識・技能の習得に係る時間を短縮し、生み出した時間で思考力・判断力・表現力の向上に向けた問題に取り組む。</li> <li>各教科や総合的な学習の時間における探究学習(PBL)の充実。</li> </ul>

## 3-② 教育効果等の分析サマリー(三高小学校)

実証研究概要	学校重点目標	自ら学び、ともに伸びる子供の育成 ～自立・共生・創造性～
	育成したい資質・能力	主体性, 自己肯定感, 共感力, 表現力
	実証手法 (自己決定場面)	イエナプランを参考にした自立・協働学習 - 学習計画表に基づき, 算数や国語の授業を中心に自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択～教科書, プリント, AI型タブレット教材など - 異学年での探究学習における探究テーマや解決手法等を自分で選択
	測定コンピテンシー	論理的思考, 実行力, 自己効力, 決断力, 寛容 (AiGrow活用:R2.7→R3.2)
	学力テスト	算数, 国語 (東京書籍:標準学力調査 R3.1)

①	資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己決定するほど実行力や自己効力が高まり, 実行するほど自己効力が高まる傾向あり。</li> <li>その他, 全体的に各コンピテンシーの伸びに相関が見られた。</li> </ul>														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>割合</th> <th>相関係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決断力 - 実行力</td> <td>決断力が伸びた児童(55%)のうち, 実行力も伸びた児童</td> <td>67%</td> <td>0.861</td> </tr> <tr> <td>決断力 - 自己効力</td> <td>決断力が伸びた児童(55%)のうち, 自己効力も伸びた児童</td> <td>75%</td> <td>0.806</td> </tr> <tr> <td>実行力 - 自己効力</td> <td>実行力が伸びた児童(45%)のうち, 自己効力も伸びた児童</td> <td>70%</td> <td>0.816</td> </tr> </tbody> </table>	区分	内容	割合	相関係数	決断力 - 実行力	決断力が伸びた児童(55%)のうち, 実行力も伸びた児童	67%	0.861	決断力 - 自己効力	決断力が伸びた児童(55%)のうち, 自己効力も伸びた児童	75%	0.806	実行力 - 自己効力	実行力が伸びた児童(45%)のうち, 自己効力も伸びた児童
区分	内容	割合	相関係数													
決断力 - 実行力	決断力が伸びた児童(55%)のうち, 実行力も伸びた児童	67%	0.861													
決断力 - 自己効力	決断力が伸びた児童(55%)のうち, 自己効力も伸びた児童	75%	0.806													
実行力 - 自己効力	実行力が伸びた児童(45%)のうち, 自己効力も伸びた児童	70%	0.816													

②	資質・能力の変容	<p>&lt;各コンピテンシーが伸びた児童割合&gt;</p> <table border="1"> <caption>各コンピテンシーが伸びた児童割合</caption> <thead> <tr> <th>コンピテンシー</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論理的思考</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>個人的実行力</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>自己効力</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>決断力</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>寛容</td> <td>68%</td> </tr> </tbody> </table>	コンピテンシー	割合 (%)	論理的思考	35%	個人的実行力	45%	自己効力	45%	決断力	55%	寛容	68%
		コンピテンシー	割合 (%)											
論理的思考	35%													
個人的実行力	45%													
自己効力	45%													
決断力	55%													
寛容	68%													
<ul style="list-style-type: none"> <li>算数や国語を中心とした授業, 総合・生活科での探究活動など, 様々な教育活動の中で自己決定場面を意識して設定したことで, 過半数の児童の「決断力」が伸びた。</li> <li>異学年による各教科での自立学習や総合・生活科での協働学習を通して, 自然に教え合い学び合う機会が増えたことから, 約7割の児童の「寛容」(相手を理解し許容する態度)が向上した。</li> </ul>														



④ 児童アンケート結果

＜異学年集団での「学習計画表を使って自分で学習を進める授業」について＞

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	86%
理解度	これまでより分かりやすかった	86%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	90%

【主なコメント】

- ・分からないところは友達と教え合って、自分でできるところは自由に進められるのでやりやすかった。
- ・他の学年と一緒にやると、分からないところを聞きやすかった。

⑤ 教職員インタビュー結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の実態を把握し、適切な支援をしていくことで、学力を向上させることができる。</li> <li>・児童が学習内容を理解し、基礎学力を向上させるためには、教材研究が重要だと分かった。</li> <li>・継続的に取り組み、子供たちに学び方が身に付けば、主体的な学びにつながると感じている。</li> </ul>
児童の反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年での学びを取り入れてみると、子供たちが生き生きと学習に取り組む姿が見られた。下学年の子へ教える喜びを感じたり、周りがかんがっている友達がいる環境がやる気につながったりしている。</li> <li>・自分で学習を進めないといけないという子供たちの思いが「主体性」につながったと思う。</li> </ul>

課題と対応

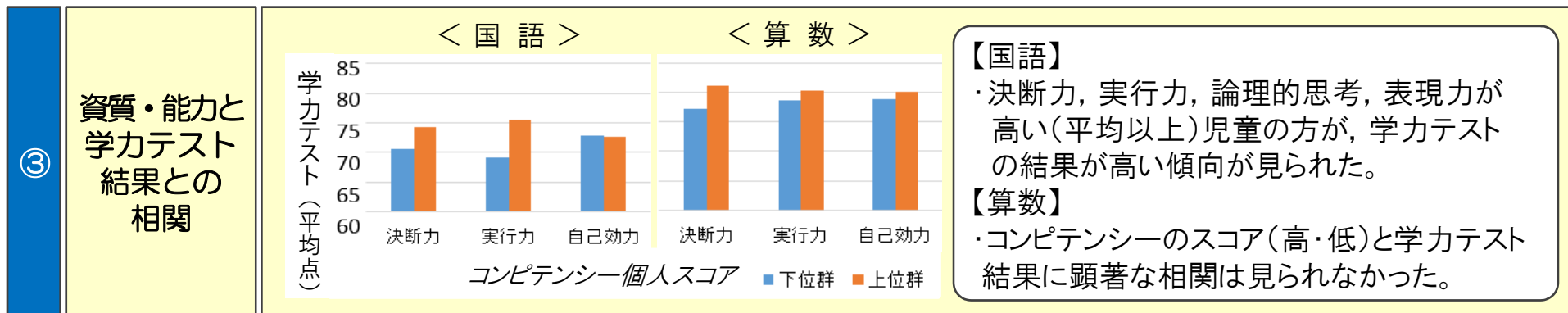
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的思考力の伸びを向上させるため、思考力等を発揮させる場を位置付けた単元づくりが必要。</li> <li>・異年齢集団による自立・協働学習の型はできたが、資質・能力を向上させるために内容の充実が必要。</li> </ul>
今後の対応(R3年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科において、教材研究を充実させるとともに、異年齢の良さを生かした授業づくりに取り組む。</li> <li>・総合的な学習の時間等における異年齢での探究学習について、学年に応じた目標や身に付けた力を明確にして、カリキュラムの更なる充実を図る。</li> </ul>

### 3-③ 教育効果等の分析サマリー(みらさか小学校)

実証研究概要	学校重点目標	自立と共生の力をもち、主体的に学び、課題解決する児童の育成
	育成したい資質・能力	学びに向かう意欲, 課題発見・解決力, 対話力, 振り返る力, 思いやり
	実証手法 (自己決定場面)	単元別プロジェクト学習 - 単元のプロジェクトを達成するための学習計画を自分で作成し, 自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択~教科書, プリント, タブレットなど
	測定コンピテンシー	論理的思考, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 寛容 (AiGrow活用:R2.7→R3.2)
	学力テスト	算数, 国語 (東京書籍:標準学力調査 R3.1)

①	資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 自己決定するほど実行力や自己効力が高まり, 実行するほど自己効力が高まる傾向あり。</li> <li>➤ 論理的思考・実行力と表現力・寛容, 決断力と表現力にそれぞれ相関が見られた。</li> </ul>			
		区分	内容	割合	相関係数
		決断力 - 実行力	決断力が伸びた児童(53%)のうち, 実行力も伸びた児童	64%	0.726
		決断力 - 自己効力	決断力が伸びた児童(53%)のうち, 自己効力も伸びた児童	75%	0.536
		実行力 - 自己効力	実行力が伸びた児童(44%)のうち, 自己効力も伸びた児童	80%	0.665

②	資質・能力の変容	<p>&lt;各コンピテンシーが伸びた児童割合&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コンピテンシー</th> <th>伸びた児童割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論理的思考</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>個人的実行力</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>自己効力</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>決断力</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>寛容</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table>		コンピテンシー	伸びた児童割合	論理的思考	55%	個人的実行力	45%	自己効力	55%	決断力	55%	表現力	55%	寛容	50%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で単元の学習計画を作ることで, 先を見通し, 筋道を立てて考える機会が増えたことから, 「論理的思考力」が向上した。</li> <li>・各教科の授業を中心に教育活動の中で自己決定場面を意識して設定したことから, 「決断力」が伸びた。</li> <li>・自己決定や実行を繰り返すことで, 「自己効力」が向上した。</li> </ul>
		コンピテンシー	伸びた児童割合															
論理的思考	55%																	
個人的実行力	45%																	
自己効力	55%																	
決断力	55%																	
表現力	55%																	
寛容	50%																	



④ 児童アンケート結果

<自分に最適な学びの方法を選択・決定して進める授業について>

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	92%
理解度	これまでより分かりやすかった	94%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	88%

【主なコメント】  
・自分のペースででき, 友達にさりげなく聞けるので分かりやすい。  
・自分で決めるから, 次にどうすれば良いかすぐにわかる。  
・中学校に入るための練習みたいで, とてもためになった。

⑤ 教職員以外への結果

区分	主なコメント
指導・支援	・教師が一つ一つ指示を出さなくても, 児童の力で学習を進められることに改めて気づいた。 ・個に応じた指導における一人一人の見取りや評価の重要性, 必要性を感じた。 ・子供たち一人一人の様々な状況に対応できるように, 事前準備をより行うようになった。
児童の反応・変化	・分からないことを児童同士で聞き合う姿が増えた。選択して活動することに積極的になった。 ・自分で計画を見て自分から学習に取り組むことが増えた。「こうしたい」と言う児童が増えた。 ・それぞれのペースで進めることができるため, 児童の退屈な時間が減った。

課題と対応

残された課題	・日頃の授業において, 自己決定場面が少なく, 自立的な学びを習慣化できていない。 ・児童の学習状況の見取りと評価及び個に応じた指導の想定が不十分。
今後の対応(R3年度)	・各教科の授業において, 知識・技能習得場面を含めて児童に委ねる場面の設定を増加させる。 ・小中一貫校であることを生かし, 9年間を見通した「学び方」を学ぶ取組を充実させる。 ・学習のポートフォリオ化と評価のシステムを確立し, 個に応じた指導を充実させる。

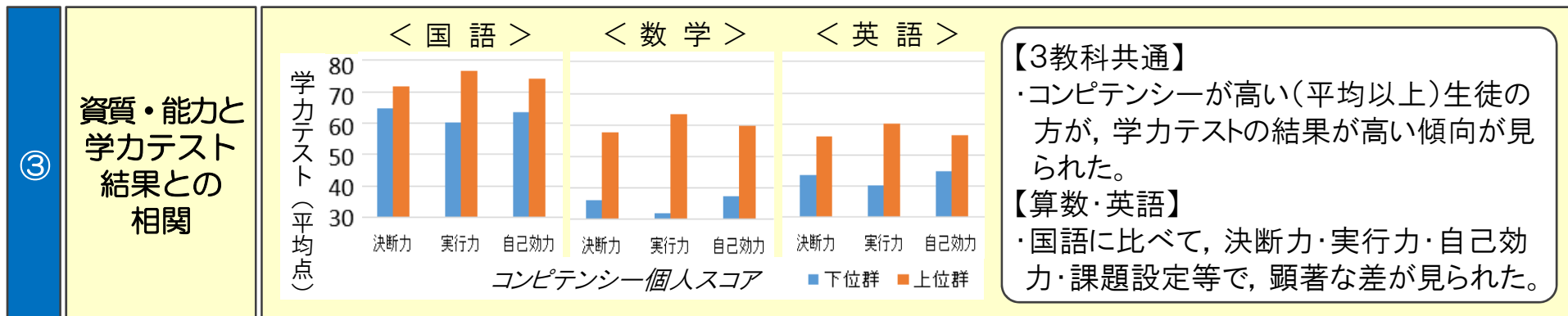


# 3-④ 教育効果等の分析サマリー(三良坂中学校)

実証研究概要	学校重点目標	自立と共生の力をもち、主体的に学び、課題解決する生徒の育成
	育成したい資質・能力	学びに向かう意欲, 課題発見・解決力, 対話力, 振り返る力, 思いやり
	実証手法 (自己決定場面)	単元別プロジェクト学習 - 単元のプロジェクトを達成するための学習計画を自分で作成し, 自分のペースで学習 - 学習方法を自分で選択~教科書, プリント, タブレットなど
	測定コンピテンシー	課題設定, 論理的思考, 創造性, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 寛容など (AIGrow活用:R2.7→R3.2)
	学力テスト	国語, 数学, 英語 (東京書籍:標準学力調査 R3.1)

①	資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己決定するほど実行力や自己効力が高まり, 実行するほど自己効力が高まる傾向あり。</li> <li>その他, 課題設定と実行力, 論理的思考・自己効力・表現力と組織への働きかけに相関あり。</li> </ul>			
		区分	内容	割合	相関係数
		決断力 - 実行力	決断力が伸びた生徒(44%)のうち, 実行力も伸びた生徒	63%	0.717
		決断力 - 自己効力	決断力が伸びた生徒(44%)のうち, 自己効力も伸びた生徒	70%	0.750
		実行力 - 自己効力	実行力が伸びた生徒(42%)のうち, 自己効力も伸びた生徒	65%	0.682

②	資質・能力の変容	<p>&lt;各コンピテンシーが向上した生徒割合&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトを進める中で, 疑問を持ったり, 課題を設定して解決する機会が増えたことから, 「課題設定」が伸びた。</li> <li>自分の意見や考えを表現するプロジェクトを多く設定していたことから「表現力」が伸びた。</li> <li>小学校に比べて, 教育活動の中での自己決定場面が少なかったことが, 小・中の「決断力」の伸びの差に影響した。</li> </ul>
---	----------	----------------------------------	---



④ 生徒アンケート結果

＜自分に最適な学びの方法を選択・決定して進める授業について＞

区分	質問項目	肯定的評価
主体性	これまでより自分から進んで取り組めた	97%
理解度	これまでより分かりやすかった	86%
満足度	今後もこういう授業を続けたい	92%

【主なコメント】  
・自分の課題を見つけることができ、考えを深められる。  
・自分たちでやらないといけないから積極的にできる。  
・自分に合った勉強方法ができるため効率的だと思う。

⑤ 教職員以外への結果

区分	主なコメント
指導・支援	・ハードルが高いと感じても、生徒の学ぶ力を信じて、委ねてみるのが大切。 ・教師側の学習内容に対する深い理解、「やっただけ」にならないよう詳細な準備が必要である。 ・一方的に話す場面が多い授業をした時、「申し訳ない、面白くないだろうな」と思うようになった。
生徒の反応・変化	・学力に課題がある生徒も、主体的に学習していた。評価問題においても成果が出ていた。 ・分からなくてもとりあえずやってみよう、調べてみようとする生徒が増えた。 ・もっとできるという向上心を持った行動や、諦めない姿勢が見られた。

課題と対応

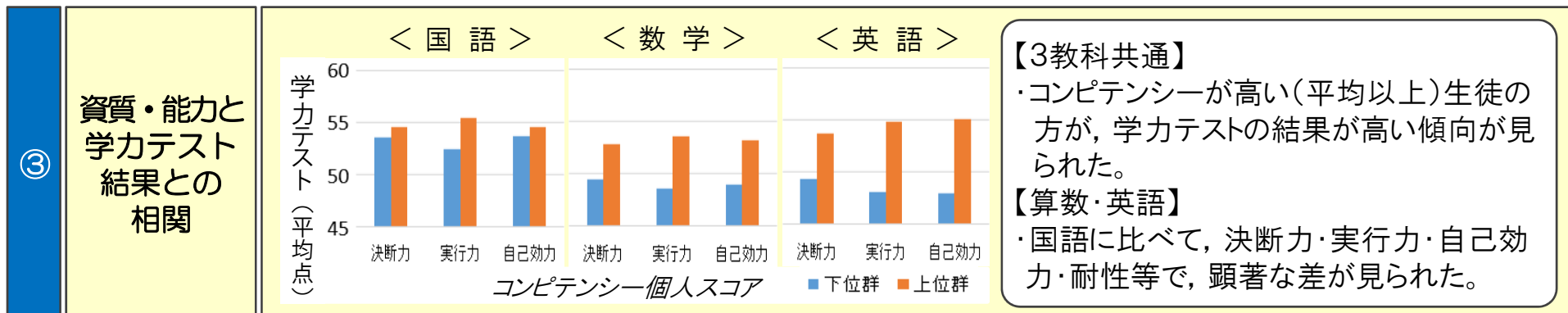
残された課題	・自己を認識し、自分で学習を調整する力の育成が不十分。 ・各教科の学力の定着、重点的に育成を目指す資質・能力の向上を意識した授業改善が必要。
今後の対応 (R3年度)	・各教科、領域において、生徒が自己決定する場の設定を増加させる。 ・小中一貫校の良さを生かし、9年間を見通した「学び方」を学ぶ取組を充実させる。 ・生徒の学習状況の見取りと評価システムを確立し、個に応じた指導を充実させる。

# 3-⑤ 教育効果等の分析サマリー(福山中学校)

実証研究概要	学校重点目標	創造的な知性と豊かな心の調和的發展を図り, 国際社会に貢献できる人間を育成
	育成したい資質・能力	情報整理力, 表現力, 課題解決力, 協働, 自他の尊重, チャレンジ精神
	実証手法 (自己決定場面)	興味関心に応じたMy探究 - 各自の興味関心に基づいて探究テーマを決定(個別の問いや課題の設定) - 活動内容・方法・場所・時間・ペースなど全て自分で企画し, 実行・振り返り・改善を繰り返す
	測定コンピテンシー	課題設定, 論理的思考, 創造性, 実行力, 自己効力, 決断力, 表現力, 柔軟性など (AiGrow活用:R2.7→R3.2)
	学力テスト	算数, 国語, 英語 (ベネッセ:学力推移調査 R3.11)

①	資質・能力の相関	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己決定するほど実行力や自己効力が高まり, 実行するほど自己効力が高まる傾向あり。</li> <li>その他, 実行力と課題設定・論理的思考・耐性・柔軟性にも相関が見られた。</li> </ul>																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>割合</th> <th>相関係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決断力 - 実行力</td> <td>決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 実行力も伸びた生徒</td> <td>73%</td> <td>0.707</td> </tr> <tr> <td>決断力 - 自己効力</td> <td>決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒</td> <td>74%</td> <td>0.675</td> </tr> <tr> <td>実行力 - 自己効力</td> <td>実行力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒</td> <td>77%</td> <td>0.650</td> </tr> </tbody> </table>	区分	内容	割合	相関係数	決断力 - 実行力	決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 実行力も伸びた生徒	73%	0.707	決断力 - 自己効力	決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒	74%	0.675	実行力 - 自己効力	実行力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒	77%	0.650
		区分	内容	割合	相関係数													
		決断力 - 実行力	決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 実行力も伸びた生徒	73%	0.707													
		決断力 - 自己効力	決断力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒	74%	0.675													
実行力 - 自己効力	実行力が伸びた生徒(52%)のうち, 自己効力も伸びた生徒	77%	0.650															

②	資質・能力の変容	<p>&lt;各コンピテンシーが向上した生徒割合&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分がやりたいことについて自分で目標を設定し, 達成に向けて工夫しながら取り組むことで, 6割近い生徒の「創造性」「ヴィジョン」「柔軟性」などが伸びた。</li> <li>自分のプロジェクトを進めるために, いつ, どこで, 何をすべきか, 全て自己決定し, 試行錯誤しながら粘り強く実行・改善を繰り返すことで過半数の生徒の「決断力」「実行力」「自己効力」「耐性」などが伸びた。</li> </ul>
---	----------	----------------------------------	---



④ 生徒アンケート結果

<自ら課題設定し、自分のやり方・ペースで実行していくMY探究について>

区分	質問項目	肯定的評価	区分	質問項目	肯定的評価
主体性	以前の総合よりも主体的に取り組めた	95%	自己認識	以前より自己認識の機会が増えた	93%
習得度	以前の総合よりも資質・能力が向上した	94%	自己選択	以前より自己選択の機会が増えた	92%
満足度	今後もこういうMY探究を続けていきたい	94%	自己表現	以前より自己表現の機会が増えた	91%

⑤ 教職員1人1人結果

区分	主なコメント
指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒の失敗」を恐れなくなった。自分も「失敗を恐れずやってみよう」と思えるようになった。</li> <li>・生徒の学びが沸き起こるまで信じて待てるようになったし、生徒への声掛けも変わった。</li> <li>・担当教科の授業でも、コンピテンシーをより意識した活動を計画し、実践することができた。</li> <li>・自分がしゃべりすぎた授業(理科)は、「うまくいかなかった」と捉えるようになった。</li> </ul>
生徒の反応・変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から動き出さないと何も変わらないことに気付いて、行動を起こすようになった。</li> <li>・動く力や考える力に大きな変化があった。自由という難しさに自ら踏み込んでいく姿があった。</li> <li>・生徒集団全体が自信を持ったと感じる。無意識に「やればできる」と感じている生徒が増えた。</li> </ul>

課題と対応

残された課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと社会との繋がりを意識させて、全ての生徒が主体的に行動を起こすような仕掛けが必要。</li> <li>・各教科の授業にも探究学習を取り入れるなど、資質・能力の向上を意識した授業改善が必要。</li> </ul>
今後の対応 (R3年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年混合のゼミ方式にして、全教職員が積極的に生徒にファシリテートできる環境を作り出す。</li> <li>・学校外での探究フェスなど、外部の人たちを巻き込んだ生徒主導のMY探究の実行場面を設定。</li> <li>・各教科における探究学習の充実、資質・能力の評価を適切に授業改善に生かすサイクルの定着。</li> </ul>

Q) 中央教育審議会の答申(R3.1)にある「個別最適な学び」と、本県の当該提案にある「個別最適な学び」は、同じ捉えなのか？

A)

○中央教育審議会の答申では、2020年代を通じて実現を目指す「令和の日本型教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す『個別最適な学び』と『協働的な学び』」とし、これらの学びを一体的に充実し、子供たちの資質・能力を確実に育成するため、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが必要であると述べている。

○また、学習指導要領にも明記されている「個に応じた指導」の在り方について、「指導の個別化」と「学習の個性化」という2つの観点から具体的に示した上で、これらを学習者の視点から整理した概念が「個別最適な学び」であると定義している。

○さらに、この「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、これまでも重視されてきた「協働的な学び」を充実することも重要であると述べている。

○本県では、国の動きに先駆けて、R2年3月に当該提案を整理しており、その中で使っている『個別最適な学び』とは、中央教育審議会の答申が定義する「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両方とも含む一体的なものとして捉えている。



「令和の日本型学校教育」の構築を目指して  
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)【概要】

第Ⅰ部 総論

令和3年1月26日  
中央教育審議会

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

新学習指導要領の着実な実施

ICTの活用

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

成果

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより再認識された学校の役割  
①学習機会と学力の保障 ②全人的な発達・成長の保障 ③身体的、精神的な健康の保障（安全・安心につながる居場所・セーフティネット）

課題

子供たちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により成果を挙げる一方、変化する社会の中で以下の課題に直面

- 本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大
- 子供たちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等）
- 生徒の学習意欲の低下
- 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化
- 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報化への対応の遅れ
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備

教育振興基本計画の理念  
（自立・協働・創造）の継承

学校における  
働き方改革の推進

GIGAスクール構想の  
実現

新学習指導要領の  
着実な実施

必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現



### 3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

#### ①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
- ◆ その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む

#### 指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、  
・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現  
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

#### 学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

### それぞれの学びを一体的に充実し 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

#### ②協働的な学び

- 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す
- 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通して学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる
- 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切